鉄路の最高到達点へ

３年Ｂ組　中根 琉成

〈はじめに〉

旅行日は５月６日。なぜ、この大型連休最終日にわざわざお出かけをしようと思ったのでしょうか。その理由はただ１つ、鉄路の提出締め切りが５月８日だったのにも関わらずネタがなかったからです。鉄路は今年で３年目、在学中最後の執筆は旅行記が良かったのでね。というわけで翌日から学校が始まるという過酷な環境ではありますがお出かけを楽しんで行きます。

〈Chapter 1 ：首都圏を西へ〉

さあ、いざ旅に行こうと言っても行き先が無ければ動き出すことはできません。これはいけませんね。ということで行き先を考えながらとりあえず常磐線を都心方向に上ることにします。使用している切符は新幹線に乗ることも考慮して「休日お出かけパス（2,950円）」にしておきました。



① JR 常磐線/上野東京ライン 快速（石岡 8:18 → 東京 9:56）

常磐線は普段から通学で使用しているので、あまりワクワクしない退屈な乗り物ですね。えっ？？　仙台方面はワクワクするって？　そちらの方面は去年７月の悪夢があるので考えたくありません。（第12.5号に詳細を執筆しています。）

② JR中央線 快速（東京 10:07 → 新宿 10:20）

常磐線車内で本日の旅行先を「JRの最高地点：野辺山駅」に決定し、乗り継ぎ計画も立てられ、ちょっとだけなら時間があることがわかったので半年近く前から財布に眠っていたニュー台湾ドルを日本円に売却しに行きます。為替とかはよくわからないのでとりあえず一番高いところで売却しました。ただ、これが意外にも時間がかかり本来乗る予定だった青梅特快を逃してしまう…もしここで青梅特快に乗れていたら立川駅での満足度は大きく変わっていたでしょうね。

③ JR中央線 中央特快（新宿 10:47 → 立川 11:12）

青梅特快を逃したので、後続の中央特快でさらに西を目指します。このせいで立川での滞在がわずか１０分になってしまいました…この時間は特急券購入＆乗り換えで精一杯で、複数の経由地がある切符を発行できず…　渋々、おでパスを着駅で清算することに。



〈Chapter 2 ：いざJR最高地点へ〉



④ JR特急あずさ17号（立川11:22 → 甲府 12:25）

無事、立川で乗り換えを成功させ、特急あずさで一気に甲府へ抜けます。実は、立川ー甲府間は96.6kmで、ギリギリ1,020円で特急券を購入することが出来るのです。それで、１時間程度の時短になるわけですから乗車しない手はありません。車内では大型連休という事もあってか親子連れが多かった印象です。



⑤ JR中央本線（甲府 12:35 → 小淵沢 13:14）

あずさ号に約１時間乗車し昼過ぎ、ようやく甲府に到着です。特急が５分遅延したため、甲府での滞在時間は約５分。甲府で乗り越し清算と新たに切符を購入する必要もあったので、ただ慌ただしかっただけという思い出になってしまいました。

小淵沢までの途中駅、日野春駅からは、昨年の７月に登頂した甲斐駒ヶ岳が見えました。

＝［**甲斐駒ヶ岳 DATE**］＝＝＝＝

標高2,967mの日本百名山の一つ。

南アルプスの最北端に位置し、

山頂は山梨県に跨っている。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝





〈Chapter 3 ：小海線に乗車！〉

⑥ JR小海線 快速八ヶ岳高原列車（小淵沢 13:19 → 野辺山 13:50）

東京駅で中央線に乗車してから３時間強で小海線乗り換え駅、小淵沢駅に到着です。当駅から乗るのは、ローカル線を走る快速列車「快速八ヶ岳高原列車」です。

途中、甲斐大泉駅のあたりでは富士山が見えました！！







しばらく森林地帯を抜けると、欧風の建物が見えてきます。ここがかつて「高原の原宿」と称されるほど賑わったリゾート地、清里です。当駅は標高1,270mに位置しておりJRの駅の中で２番目に標高が高いことで有名ですね。





〈Chapter４：最高地点HIGH RAIL〉

清里駅を出発すると「列車は間も無くJR線の最高地点を通過いたします。標高は1,375mで…」という旨の車内アナウンスが流れました。アナウンス終了後すぐに「JR鉄道最高地点」と書かれたモニュメントと鉄道最高地点神社が見えました。（反対側の車窓からは石碑が見えたらしい…）



最高地点を過ぎるとすぐに、車窓には大きな天文台が！？野辺山宇宙電波観測所です。このあたりは星がよく見えるみたいですね。また夜に来てみたいなぁ…









列車はついに、JRで最も標高が高い駅、野辺山駅に到着しました！（標高ー1,345.67m）
次の普通列車が来るまで約３０分！！野辺山の駅前を探索してみましょう！！

駅舎は可愛らしい作りになっていました。駅構内に売店は存在しませんが、待合室が充実していました。内部には、星空をイメージした屋根が広がっており面白い駅でした。駅の入り口には「最高駅」野辺山と書かれたモニュメントが！！　また、駅ホーム上には小海線を走る観光列車「HIGH RAIL 1375」の顔出しパネルもありました。（HIGH RAIL 1375…、乗りたかったなぁ…、GWじゃなければなぁ…）











野辺山駅の周辺にはこの地が国鉄ＪＲ線の最高地点であることを、全面的に押し出したモニュメントが多数設置されていました。駅前のお土産店では、信州のお菓子やここが舞台となった名探偵コナンの映画グッズが販売されていました。私は家族へのお土産の信州のお菓子と、鉄分の補給にもなりそうな？？記念にもなる最高地点の木製キーホルダーを購入しました！！

そんなことをしている内に列車出発の時間が着々と近づきます。





〈Chapter５：信州の高原を駆ける〉

⑦JR小海線（野辺山 14:15 → 佐久平 15:40）

ついにこの旅も帰路に突入しています。列車は山々の間を縫うように走り、路線名にもなっている小海駅に到着します。当駅で７分程度停車をした後でしばらく進み、北陸新幹線乗り換え駅、佐久平駅に到着します。



佐久平駅は新幹線が地平に在来線の小海線が高架上にある面白い構造をした駅です。ここで３時間半ほど乗車した小海線とお別れです。悲しみに暮れながら小海線に別れを告げて、翌日の登校のため家に帰りましょう。

ここから乗車する路線はただ１つ北陸新幹線しかありませんね。しかしこの日は大型連休最終日、もちろん指定席は満席。仕方が無いので自由席特急券を購入し、列車を待つことにしましょう。

⑧JR北陸新幹線あさま624号（佐久平 16:14 → 高崎 16:38）

乗車ホームで新幹線を待っていると「本日、自由席車両が大変混み合っております。指定席車両のデッキをご利用ください」とのアナウンスが。まあ想定はしていました。なぜなら大型連休最終日。帰省からのＵターンラッシュに飛び込んでいくようなものです。結局、はくたか号は高崎駅まで座れませんでした。







途中の軽井沢駅は、第１２号で執筆した鉄路で信越本線、碓氷峠のＪＲバスを乗り継いで来た場所です。去年の鉄路の最後に、「今度軽井沢に行く機会があれば北陸新幹線を利用したい」と書いていましたが、まさかこのような形で新幹線に乗って軽井沢を通るとは思いもしませんでしたね。

⑧JR上越新幹線とき332号（高崎 16:42 → 熊谷 17:02）

やっぱり新幹線は速いですね。あっという間に高崎へ到着です。

はくたか号は熊谷駅を通過するので、とき号に乗り換えます。

なぜ熊谷までしか新幹線に乗らないのか。理由は、距離を見れば明らかです。佐久平ー熊谷間は99.7km、ギリギリ100kmを超えていないので自由席特急料金がなんと1,870円で済みます。



←熊谷駅で令和６年まで使用されていた駅の外壁看板の文字モニュメント





⑨JR高崎線（熊谷 17:28 → 上野 18:33）／　⑩JR常磐線（上野 18:40 → 石岡 20:07）

ラストの高崎線・常磐線はこの鉄路の編集、１週間後のテスト勉強、そして疲れて寝てしまっていた部分もあり、特に書くことはありません！！



〈終わりに〉

終始ご精読くださり、厚く御礼申し上げます。今回の旅路で、目的地となったJR最高地点の標高は1,375m「１（ひと）３７（みな）５（幸福／合格）」という語呂合わせもあるみたいです。この旅を最後に旅はしばらくお休みです。志望校にHIGH RAIL（入れーる）ように残り９ヶ月！！　頑張るぞ！！